

DRAMA かながわ 81

神奈川県演劇連盟事務局：神奈川県横須賀市米が浜通1-3 Tel.045-263-4472

演劇は負 けない!

コロナなんかには負けないぞ! やっぱり芝居やりた〜い!

マシュマロ・ウェーブ「天衣無縫」2020年9月公演を訪問取材
文:劇団横濱にゅうくりあ 吉浜直樹 / 語り手:マシュマロ・ウェーブ 木村健三

コロナ騒動の影響で、さまざまな芸術活動が止まっている。

とりわけ演劇、なかでも小劇場系劇団は、舞台と客席が近く舞台上では役者間の距離も近くなる。おのずと飛沫散布の危険性は高い。

しかし、多くの劇団がそうであるように、若い劇団員はトレーニングや稽古を積み重ねながらも、その先にある公演という目標が見えない現実にともいえないやるせなさを募らせる。マシュマロ・ウェーブとて、それは同じ。そして彼らは戦うことを選択した。

もちろん、リスクを克服するために何が必要か？社会的責任を果たすためにどんな防衛策を考えるべきか？議論を積み重ねた。

その先で舞台を作るという選択をしたのだ。かれらはいかにして舞台に向かう階段を駆け上がったのか。偽りのない本音を聞いた。

— この時期に舞台をやろうと決めた動機は？

5月から8月まで4ヶ月かけて実施するはずだった「青少年のための芝居塾」が来年度に延期となり、自粛期間中は動画配信などの活動を続けて来ました。しかし、舞台芸術の最大の魅力である「生」の観客と「生」の役者が作り出すかけがえのない時間と空間を、今年の芝居塾の塾生から劇団員になったばかりのメンバーに、なるべく間隔を空けずに、体験させたいと考えて今回の公演開催を決めました。

—— その決定は代表として木村さんが決めたのか 劇団員の総意としてか？

劇団員の総意として、閉塞した時代に癒しと元気を届け、演劇文化を守るために、万全の新型コロナ感染症拡大防止対策を施した公演を開催しようと決めました。

—— 公演決定についての総意調整の段階で葛藤はなかったのか？

客席側の問題は徐々に緩和されて来ていますが、ソーシャルディスタンスを保ったままで、さらには大きな声を出さない、あるいはマスクを着用したままで演技が成立するのかなど、舞台側にはまだまだ制約があります。自由が売り物の演劇なのに、多くの制約の中で自由な表現活動ができるのか悩みましたが、自由な表現を取り戻せる日を、ただ待っているのではなく、前へ進むことにしました。

—— 公演決定してからの稽古運営はどんな工夫をしたか？

従来の普通の状態での稽古とは違ったと思います。感染を拡大させるリスクが高いと考えられる密閉空間（換気の悪い場所）、密集場所（多数が集まる密集場所）、密接場面（間近で会話や発声が行われる）という3つの条件が重なる場所、それこそが稽古場ですから、いわゆる「三密」にならないように、感染対策に徹底して取り組みました。そのため、演目は一人芝居を選び、リモートでの練習を多く取り入れました。稽古場では常時換気に努め、テーブル・椅子等の物品の消毒を頻繁におこないました。

—— 公演当日の運営について劇団内で相談・決定している点がありますか？

舞台前から客席までの距離を2メートルあけ、客席は観客同士が触れ合わないように席の間隔を1席あけ、客席数を2分の1にしました。来場者の名前、連絡先、



来場日時がわかる名簿を作成し1ヶ月保管しました。受付周りのスタッフはマスクの着用だけでなく、フェイスシールド、受付用窓口シールドを使用しました。来場者には全員、マスクの着用と咳エチケットの遵守をお願いし、マスクのない方にはマスクを配布しました。また来場者には全員、入場時に手と指のアルコール消毒と検温をお願いし、37.5度以上の発熱症状が見られる方の入場をお断りしました（幸いにもお断りした方はいませんでした）。終演後は、可能な限りお客様との接触を避けるため面会を中止しました。



—— 劇団員には健康管理でこれまで以上に細かい気配りをしていますか？

公演の安全で円滑な運営に必要な最小限度の人数となるよう工夫をし、マスク着用や公演前後の手洗い、手指消毒を徹底し、また各自自宅で検温を行い37.5℃以上の発熱がある場合には自宅待機としました。

仕込み、リハーサル、撤去においては、十分な時間を設定し、密な空間の発生防止に努め、マスク着用を求めるとともに十分な間隔を取るよう心がけ、常時換気に努めました。舞台上で触れる機器・小道具等、舞台面の清掃・消毒を行い、椅子等の物品の消毒を毎回行いました。

—— あえてこの時期の公演開催に臨んでの覚悟みたいなことは話し合っていますか？

今、国民一丸となって新型コロナウイルスと戦っていて、これからも医療、政治、経済、文化など、あらゆる領域で終わりの見えない戦いが続くでしょう。我々演劇人も歴史始まって以来最大のピンチを迎えています。演劇の持つ力と可能性を信じて歩み続けます。

以上のことが、劇団員、そして今回の公演にかかわったすべての者の集約した意見です。

マグカルにて実施した感染症対策について

文：TEAM IMITATION 寺師涼

緊急事態宣言を終え、マグカルシアターは9月に再開いたしました。演劇を必要とし足をお運び下さったお客様に少しでも安心いただけるよう対策を行っております。

本記事にてこれから観劇を検討されるお客様の参考になりますようお願いさせていただきます。

■ 客席上限数の制限

県の規定に則り客席数を減らし、密を避けると共に、飛沫への対策を行っております。

■ 完全予約制の導入

以前までは当日空席があればご予約なしでもご入場のご案内をしておりましたが、有事の際のご連絡先把握のために事前予約制を導入致しました。これによりスタッフの人員数の調整や回毎の混雑アナウンスがスマートになり密を避けられるというメリットもありました。

■ 手指の消毒・検温の導入

アルコールにて手指の消毒にご協力いただきました。使用する劇団により違いはございますが、受付会場入り口・劇場扉前の二箇所に設置している劇団が多いです。また37.5℃以上の体温が検出されたお客様の入場をお断りさせていただくアナウンスをしておりました。スタジオHIKARIは急な坂の上にある劇場のため激しい運動をした直後の状態となり、高い体温が検出されることを危惧しておりましたが、余裕を持った来場をして下さる方が多く再検温となる事態はほぼありませんでした。

■ ソーシャルディスタンスを保った受付

受付時間隔を保ってお並び頂き受付を行います。

■ LINEコロナお知らせシステムの導入

受付や会場入り口にQRコードを設置し、感染症対策の取り組み内容の把握や、感染者が訪れた場所を同じ時間帯に訪れた方にメッセージが届くシステムです。

■ 会計時コイントレー・アクリルボードの使用

会計担当スタッフとの接触を限りなく少なくしております。アクリルボードはセンター職員の手製で舞台技術の高さを感じさせる品物です。

■ 公演毎或いは時間ごとの消毒

劇場内・楽屋内の消毒を規定濃度の次亜塩素酸ナトリウム水やアルコールを使用して拭き上げ等行っております。

■ 規定時間による換気の導入

上演時間が一定時間をこえるようであれば途中休憩を設け換気を実施しております。お客様がいらっしゃらない時も積極的に換気を行っております。

上記以外にも劇団ごとに違う取り組みがある場合がございます。必要不急の生物と言われる演劇ではございますが、少しでも皆様の生活の隣に存在できるよう努力を続けてまいります。健康第一で、是非観劇をご検討ください。

第18回かながわ演劇博覧会に向けて

文:かながわ演劇博覧会実行委員 穂村一彦(劇団「無題」)

前回の第17回演博は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となってしまいました。未だ予断を許さない状況が続いていますが、感染予防に向けた取り組みを徹底した上で第18回演博を開催することといたしました。

参加団体の募集開始は例年より遅い11月。また2週間という短い募集期間にも関わらず、10団体の応募

がありました。昨年参加を予定していた団体、久しぶりの参加となる団体、新しく立ち上げた団体など、実に興味深い演博となることは間違いないでしょう。

どうなるか先は見えない世界ですが第18回かながわ演劇博覧会に手を挙げてくださった参加団体をご紹介します。

劇団かに座

創立70周年を迎え「横浜の地に根ざしたドラマを作っていこう」をモットーに毎年定期公演を行っております。今期新しく入団した劇団員を中心に、7年ぶりの出演となる演劇博覧会に挑みます。



劇団セイロン

皆が知り合う前から劇に情熱を注いできた3人が集結して、劇団を立ち上げました。カフェでくつろいでいるような感覚で劇を見てほしいという気持ちを込めて紅茶からセイロンという名前をつけました。今回は旗揚げ公演です。



MMTパントマイム

やまさわたけみつ主宰の鎌倉を拠点に活動するパントマイムの劇団です。演博へは第13回から参加しています。残念ながら中止となった前回の分まで、精一杯『心で語る言葉』を紡いでいきます。



劇団「無題」

横浜・湘南台の社会人劇団です。わかりやすく面白いエンターテインメント作品を目指しています。今回は「もしも戦国時代にSNSがあったら?」をテーマに、初のファンタジー時代劇に挑戦します。



劇団おらんだ

旗揚げ15年目の劇団ですが2020年に初めて劇団員を抱えました。
芝居のような芝居じゃないような何かを皆様にお届けします。



劇団横濱にゅうくりあ

横浜をテーマ・イメージ・舞台とするオリジナルシアターを展開する団体
です。2021年演劇博覧会にエントリーするのは、一人芝居と映像の
コラボレーションです。モノログの可能性と題する一人芝居、そして
映像作品はにゅうくりあの両輪。にゅうくりあワールドをご堪能あれっ！



劇団CloveR

私たちは横浜市のとある中学校演劇部OGが集まって結成した劇団
CloveRです。幸せを呼ぶクローバーにちなみ、舞台に立つ喜びを
感じたい、そして観に来て下さる方にほんの少しの幸せをお届けしたい
と思っています。今回の演博では短編に挑戦したいと思っています！



幻像企画 ナナシマイ

「アイデアより、」地球の代わりに星を探す宇宙飛行士と、王子さま
の格好をした不思議な少年。そして美しい一輪のバラ。飛行士は、自
分の正義を信じているが… 幻像集団ナナシマイがダンスと音楽と共
に送る、SFヒューマンドラマ。



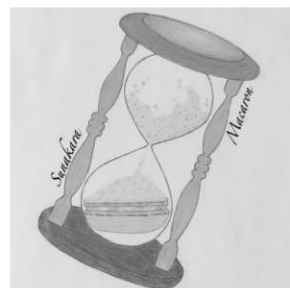
劇団カレーライス(小盛)

平塚市を拠点に活動する劇団カレーライスの団員を中心にしたユニット
です。少人数ながら、お客様の心を満たせる気の利いた一品を提供し
たい…そんなを思いを(小盛)という名に込めました。小洒落たメニュー
をご賞味ください。



劇団砂からマカロン

もっと若者にも演劇を広めたいという思いから、若者による若者のため
の若者の舞台作りを励んでいる。今回の演劇博覧会ではとある古着屋
の日常をお送りします。古着屋ならではの衣装もお楽しみにっ！



僕らの演劇

プラスチックな月

「プラ月演芸場」作:古典落語「時そば」「紺屋高尾」より演出:福本ぶう之介
2020年10月4日 於:Youtube配信

神 奈川県演劇フェスティバルのトップバッターは「プラスチックな月」さん。2020年のご時世で演劇への圧が強くなっていく最中、Youtubeでの動画配信を行なっているらしいです。

演目は「時そば」と「紺屋高尾」。どちらも有名な落語ですが、私恥ずかしながら「時そばは扇子で蕎麦食べる」くらいしか存じませんので、今回初めて観させていただきました。そんな素人目線でのレビューになります。

「時そば」… お蕎麦のお代を支払う時に時刻を聞くことで金額をちょろまかした熊さんを真似して逆に損する羽目になる八さんのお話。途中何度も話を中断しネタシーンが挿入されていました。ピクチャ・イン・ピクチャ（動画内に動画を挿入）による動画ならではの演出もあり、定期的に動画を投稿されてきた経験値の蓄積を感じました。八さん役の田中優里さんの少年のようにハツラツとした有様が爽快で、途中数回熊さん役の福本ぶう之介さんが異性として接しようと試みる様がロックで、でも聴かせたいセリフはとて丁寧に繰り返してくるのもまたロックでした。ネタのたびに袖から役者が湧いてでる様はパチスロの魚群を彷彿とさせビッグでした。ネタ要因として投入される竜木みちるさんの狂気が動画からも伝わってきて、いと★ロックでした。

「紺屋高尾」… 女に興味がなかった染物屋の若い衆久蔵が、グラビア写真集で一目惚れした高級遊女、高尾太夫に会うために3年必死にお金を貯めて、会いに行ったら筆下ろしのみならず結婚できちゃったというお話。「時そば」に比べると比較的脇道にそれず作っている印象でした。（元を知りませんが）倉田京太郎さん、途中まで「時そば」の蕎麦屋だっけ気付きませんでした。「稽古でも言えなかった長ぜりをやっとなスムーズに言えたんじゃん」は魂の



叫びを感じました。あと渥美清さんみたいでした。ジャイアント田村さんは前回の作品と同じような役だと言う結論に至りました。リンクした感じが心地良かったです。

おそらく観客がいればもっと盛り上がったであろうシーンもいくつかありました。動画の編集に苦慮されているところも見受けられました。しかし、昨今の演劇への厳しい要求を満たしつつ無事公演されたことを非常に嬉しく羨ましく思いました。

追記：なんと公開済みの動画を再編集して再アップしているらしいです。是非QRコードからアクセスしてみてください！

劇団おらんだ おらんだ



G/9-Project

「ファニーな関係」 作/演出:仲尾玲二

2020年10月31日 於:かながわアートホール

コ ロナ下での舞台である。私事で恐縮だが、我が劇団ではコロナ対策ということで、リスクを取りながらもあえて公演を打つということを控えている。公演そのものは何とか成立しても、その前の稽古運営が感染対策を万全にできる保証がない限り、内部的にも外部への責任という点でも、100%の安全が見込めない限り成立しないとの考えがあるからだ。このへんは他劇団の皆さんも同様であろう。一方で芝居ができないことへのフラストレーションも大きい。これは劇団員の年齢が若いほど、大きなジレンマとなっているのではないだろうか。

そんな葛藤を乗り越えての舞台。今回は小屋が空間的には十分なキャパを持つかながわアートホールということもあって、客席との距離は十分であった。通常のキャパは200と聞いているが、客席間隔を一人おきにし、キャパを半分にする事で安全を確保した。収益性の面では大きな犠牲を払うことになるが、それでも舞台を作りたいとの彼らの熱意に敬意を表したい。受付対応は、すべての来場者に対して検温、手指消毒の励行など通常レベルの防疫対策をきちんと真面目に講じていた。座長である佐藤さんの責任感の表れだろう。作品はG/9のお得意ともいえる日常生活の何気ない一面にスポットを当てて、ユーモアで味付けしたライトコメディ。気軽に楽しめるのがいい。通常はオーケストラで使用する事が多いこの空間は、舞台が手前と奥の部分に分けるように階段構造にできることを今回初めて知った。立体感のある空間が現出して、そこに高さを生かしてお洒落で楽しい飾り付けを施し、とても明る



い印象だ。大道具としての装置は使わずともこうした小技でも十分に空間演出が可能なのを感じさせてくれた。

さて、お芝居である。難しい見方は、この舞台にはそぐわない。ストーリーも特別な展開は、特にない。それでも役者たちがまるで自分たちの日常生活をそのまま芝居にしてしまったような、普段着の楽しさが溢れていた。ただし、若い役者さんたちの何人かは発声に今後の課題あり。このところの筆者の聴力低下を考慮しても、つらい場面がいくつかあった。ベテランの声はしっかり届いてきていたから、これは我が聴力の問題だけではなさそう。というものの、舞台を見てからの時間経過が多少ある中でも、あの明るさがひととき印象に残っている事からも分かるようにとにかく明るく楽しかった。最後に、終演後の客出しについて一言。通常通り、ロビーでを想定したが、誰もいない？と思っていたら、なんと全員外。観客はホールから階段を下りて、外へと向かう。その両側にずらっと並んでのお見送りだ。やるねえ！ 最後まで芝居心いっぱいのG/9でした。

劇団横濱にゆうくりあ 吉浜直樹

劇団蒼い群

「公園ものがたり」 作:別府寛隆 演出:河崎恵子

2020年11月14日～15日 於:横須賀市立青少年会館3Fホール

これは私にとっての初めての劇団蒼い群である。私がその個性を感じることが出来たのは前説だ。前説も立派な舞台である。紙芝居を使った横須賀クイズは斬新だった。クイズが終われば注意喚起だ。何度も何度も「寝ないでください」とお願いしていた。

第一話「言い訳」… 今回の芝居は全て舞台が公園の短編集。セットはベンチが二つあるのみ。最初に始まったのは、施設にいる男性吾郎とその職員伊達の会話だ。ゆっくりでテンポは一定。その中で時折オーバーアクションを混ぜる。「寝ないでください」とお願いしていた理由はこれか。人間は一定のリズムを聞いていると眠くなる生き物だ。ここで合点がいった。

もう一つのポイントが、同じくだりを何回も繰り返すところだ。正直飽きていた。だが、私の祖母も二分に一回の

ペースで「今日は何日？」と聞いてくる。これは認知症患者の揶揄であり、高齢者社会になっていく日本への危惧なのかもしれない。

第二話「宿り木」… こちらは若手女性作家今日子と、そのゴーストライターをしている高齢女性玲子の話だ。作品が大絶賛されていることで胸中を曇らせている今日子。だが、この物語の本質はそこではない。まず、今日子が玲子の旦那と不倫が判明。テイストが急に変わり、観客は息を呑む。しかも不倫を玲子は知っているどころか、わざと不倫させているという驚愕の事実。今日子は若さだけを利用されていたのだ。それはまるで「宿り木」のように。今日子は自分で書いていない物語を自分の作品として世に出すことはもう嫌だと思った。それも充分作家魂溢れる意見だと思う。だが、この作品で一番狂っていたのは、旦那と旦那が見つけた女を作品の一部としか見ていない玲子なのだろう。

第三話「ママのエイプリルフール」… こちらはコメディタッチな作品だった。親子のやり取りがとてもテンポ良く、登場する親族たちも皆キャラクターが強烈だった。特に祖父が変わり者で目を奪われる。この作品のポイントは「ピザラのエビマヨよくばりクォーターピザ」だ。このメニュー名が何度も叫ばれるのだ。そして、第一話が盛大なフリとなり生きてくる。この作品はリアルをギリギリまで詰めたフィクションだった。起伏が少ない、でも会話は次のステップに進んでいる。すれ違いざまに聞こえてきた会話を、まだ理解できていないのに通り過ぎてしまったような感覚だった。引き返してそのお喋りの続きが聞きたい。なんとも不思議な世界観だった。

私が特に気に入っているのは第二話だ。常人には理解できない才能を持つ人間というのはどうも魅力的だ。作家の“最期”を描く様子も興奮した。

また、このご時世に合わせて、入場時には検温とアルコール消毒、公演は一話ごとに換気を行うシステムもお客様第一であることかよく分かった。

作品はもちろん、スタッフの対応も含めて、どんな人がお客様に多いのかをしっかりと把握している劇団は素晴らしいのだと、心に強く印象付けられたのだった。

劇団砂からマカロン 本庄未怜



劇団かに座

「あした天気になあれ」 作:ふたくちつよし 演出:馬場秀彦

2020年11月20日～22日 於:関内ホール・小ホール

まず、劇団かに座70周年おめでとうございます。一つの劇団を70年も継続してきたことに心より敬意と敬意を表します。またこのコロナ下で公演に踏み切ったことも、数多の苦労の連続であったことと、推察いたします。敬意と賞賛を送ります。

さて本編ですが、舞台は劇団内で製作している装置とは思えない丁寧な作りで申し分のない拵えでした。演出上出入り口を中心にして、シンメトリーに分けたせいか、役者同士が、舞台上でもソーシャルディスタンスかとも思えました。脚本の指定だとは思いますが、カーテン越しに各ベッドの中でのやりとりが聞こえるのは面白いが、シールド越しの芝居のようでこれもコロナ対策かと思えてしまいました。終盤の場面で妻とのカーテン越しの芝居は、モノログのようであり、リモート映像の画像が写らないようなもどかしさを感じました。今ひとつ演出的な表し方が有ったらと思いました。脚本指定だとは思いますが、シャツも靴下も中に入れていたというカーテン中から聞こえる台詞に、外の患者が懸命にシャツを中に入れ、隣の閉鎖的な患者も、カーテンを開けるとシャツ靴下を中に入れていた途中だったというのは面白いが、日が変われば普段のようにシャツ靴下は出しているだろうと思いました。些細なことですが、人間性が表れるところなので気を配って欲しい。

役者の顔ぶれを見ると、どこも座員減少に苦しんでいるんだと理解しました。主宰で患者役の馬場さんは、老獪な芯となる役どころを無難には演じていましたが、もう少し張りが欲しい。その相手役の退院間近の患者役永坂さんも、対峙する人間関係でよかった気がします。馬場さんに引っ張られて単調な役どころに収まってしまってい



るのが惜しい。患者の息子の母、金谷さんのはじけた感じがしないので、もっとあたりを乱す芝居があれば面白い役どころなのと思ってしまいました。その点看護婦の先輩役鳴海さんは、大いに期待できる役者に感じました。なのに遠慮がちで、その場を引き立てる狂言回しにもなれるはずなのに、伸びきらない。みんな、距離を取っているような、メリハリのない人物の描き方でした。

脚本としては、ホームドラマです。家庭の不和を抱えている患者、会社に尽くしているのに出向の憂き目にあう社員。それぞれの悩みを抱えながらも、みんなが「明日晴れるといいな!」という希望を持ちながら生きていくという、アットホームな芝居なので、対立感がなく、かつ人間的にも深く掘り下げられていない作品なので、出来としては無理ないなあという感じがしました。でも、かに座として、破綻のない拵え方で全体のアンサンブルに優れた芝居でした。

前主宰の時は、演出者も役者も記載していませんでしたが、演出馬場秀彦とはっきりと表記するようになったというのは、演出責任を持ちますという表れなので、誰の演出なのか不明確なまま終わるという気持ち悪さがなくなりました。

今後も、新生劇団として大いに期待するところです。

濱田重行

編集後記

今年度の開催事業として、演劇フェスティバルは全8団体の公演を予定通り終了することができましたが、TAK in KAAT(5月/9月)と青少年のための芝居塾(8月)は開催中止となってしまいました。それに伴いDRAMAかながわの発刊数も3回に減少しています(例年は4回発刊)。

今期は合同公演(2月)とかながわ演劇博覧会(3月)の事業を残しております(2020年12月末時点)。しかし状況を見て中止もしくは形態を変えての開催となる可能性もございますので、ご了承くださいようお願い致します。

オッスタかのり(劇団かに座)

神奈川県演劇連盟加盟団体(50音順)

- 演劇プロデュース『螺旋階段』●京浜協同劇団●劇団蒼い群●劇団おらんだ●劇団河童座
- 劇団かに座●劇団唐ゼミ☆●劇団こゆるぎ座●劇団砂からマカロン●劇団820製作所●劇団「無題」
- 劇団横濱にゆうくりあ●theater 045 syndicate●G/9-Project●studio salt●TEAM IMITATION●虹の素
- プラスチックな月●マシュマロ・ウェブ●まりこ☆みゅーじあむ●M.PinK(ミュージカルプロジェクトin神奈川)
- ムームー企画●横浜小劇場(横浜演劇研究所付属)

神奈川県演劇連盟HP: <http://kenenren.org/>

DRAMAかながわ[第81号] 発行日:2020年12月31日 発行:神奈川県演劇連盟 編集:オッスタかのり(劇団かに座)・吉浜直樹(劇団横濱にゆうくりあ)・穂村一彦(劇団「無題」)・緑慎一郎(演劇プロデュース『螺旋階段』)・寺師涼(Team Imitation)・野比隆彦(studio salt)・波田野淳紘(劇団820製作所)